

起立性調節障害とは

自律神経の働きが悪くなり、起立時に身体や脳への血流が低下する病気で

- ・ 食欲不振
- ・ 立ちくらみ・失神
- ・ 朝が起きられない
- ・ 全身倦怠感
- ・ 頭痛、立っていると気分が悪くなる

起立性調節障害とは

- 症状は午前中が強く、午後からは体調が回復する。夜は元気になりすぎる人もいます
- 症状は日によって変わったり天気によって異なることがあります
- 一般的には春先から夏にかけて悪くなります
- 起こりやすい年齢は中学生～高校生です
- 脳の自律神経中枢の機能が悪くなるのが原因といわれていますがよくよく分かっていません

診断基準

- 1, 立ちくらみやめまい
- 2, 起立時の気分不良や失神
- 3, 入浴時や嫌なことで気分不良
- 4, 動悸や息切れ
- 5, 朝なかなか起きられず午前中調子が悪い
- 6, 顔色が青白い
- 7, 食欲不振
- 8, 腹痛
- 9, 倦怠感
- 10, 頭痛
- 11, 乗り物酔い

他の病気でないことを確認したり新起立試験やhead up tilt試験にて診断を確定したりサブタイプを判定したりします

治療

<非薬物>

- 水分摂取（1日 1 ～1.5L）
- 塩分+3g
- 急に立ち上がらない（30秒以上かけて）
- 生活リズムの確立
- 加圧式腹部バンド、加圧ソックス（保険適応なし）

<薬物>

- 患者さんに応じて使用します 詳しくは病院で